

1906-2021

坂口安吾
ANGO SAKAGUCHI
生誕祭



115



2021
10

20
wed

私が諸国に居を移して、轉々と住み歩いて
 みたころ、ある町で、美貌をうたはれた姉妹
 があつたが、妹が姉をピストルで射殺した事
 件があつた。まもなく私は、遠く離れた別の
 へ引越してしまつたので、この判決がどう
 なるか、もしも知らないのだが、然し
 この事件は、年月を経ると共に、私のうち
 、むしろ深い感動を育てた。といふのは、
 私はその町で一人の文学青年とちかづきにな
 つたが、その男は、この姉妹の家の書生をし
 てゐり、又、事件にも、いくらか関係してゐ
 る。私はこの男から、この知らぬ内にもさ
 いてゐたからであつた。殺された姉妹が死際
 に發したといふ言葉、それは当事者以外に多
 分私が知つてゐるだけだと思ふが、私はそれ
 を思ひだすたびに、非常に發忍な、けれども

坂口安吾

発見された未発表小説のなぞに挑む！
21世紀に甦る安吾

〈坂口安吾生誕祭115〉2021年10月20日(水)

- 第1部/「安吾 風の館」見学と「安吾のふるさとまち歩き」
- 第2部/講演「安吾のいる風景」坂口綱男(写真家・坂口安吾長男)
- 第3部/鼎談「誰も知らなかった安吾-未発表小説のなぞ」
 浅子逸男(花園大学名誉教授)
 七北数人(文芸評論家・作家)
 梨本諦鳴(映像作家・演出家)

問い合わせ:

坂口安吾生誕祭実行委員会事務局(新潟市文化政策課) tel.025-226-2631

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント参加時には検温、マスク着用などのご協力をお願い致します。※事前の予告なしにイベント内容が変更となる場合があります。

存在も知られてなかった坂口安吾の未発表小説が昨秋、東京都内の古書市で発見された。署名だけでタイトルはなく、原稿用紙41枚の未完で終わっている。男女の愛憎が絡んだミステリー仕立ての復讐劇。いつ書かれたのか。なぜ未完に終わったのか。ヒロインの名が共通する戦後の野心作『花妖』の原型なのか。すべてはなぞに包まれている。未発表小説の書籍化に関わり、80年後に甦らせた研究者が縦横に語る鼎談—「誰も知らなかった安吾-未発表小説のなぞ」

第1部

「安吾風の館」見学と「安吾のふるさとまち歩き」

日時 / 10月20日(水)10:00~11:30
 集合場所 / 安吾風の館(新潟市中央区西大畑町5927-9)
 案内人 / 坂口綱男(写真家・坂口安吾長男)
 参加費 / 500円(ガイドフォン・保険代含む・当日支払い)
 定員 / 20人
 申込方法 / 新潟市文化政策課(tel.025-226-2631)へ電話で申し込む
 受付期間:9月22日(水)9:00~10月6日(水)17:00
 参加を希望する全員の氏名、電話番号をお伝えください



坂口 綱男(さかぐち・つなお) / 写真家

1953年群馬県桐生市で坂口安吾の長男として生まれる。1978年からフリーのカメラマンとして広告写真や雑誌の写真を撮る。主な著書に『安吾のいる風景』、写真集『現代俳人の肖像』『安吾と三千代と四十の豚児と』ほか。

第2部、第3部

講演「安吾のいる風景」坂口 綱男(写真家・坂口安吾長男)

鼎談「誰も知らなかった安吾-未発表小説のなぞ」

浅子 逸男(花園大学名誉教授)
 七北 数人(文芸評論家・作家)
 梨本 諦鳴(映像作家・演出家)

日時 / 10月20日(水)13:30~16:15(13:00開場)
 会場 / りゅーとびあ 新潟市市民芸術文化会館 能楽堂(新潟市中央区一番堀通町3-2)
 参加費 / 無料
 定員 / 250人(先着順、要事前申し込み)
 申込方法 / 新潟市役所コールセンター(tel.025-243-4894)へ電話で申し込む
 受付期間:9月24日(金)8:00~10月17日(日)21:00
 参加を希望する全員の氏名、電話番号をお伝えください



浅子 逸男(あさご・いつお) / 花園大学名誉教授

1951年3月東京都生まれ。都立高校勤務のあと、88年から花園大学に勤務。大田区大森界隈で育ったため、関西弁はほとんど話せず、早口の京都弁は聞き取ることができない。関西の笑いのツボが理解できず、テレビの「探偵ナイトスクープ」を毎週見ることによって学生との会話ができるようになった。そう思った矢先、停年を迎えた。2021年3月退職。著書に『御用!「半七捕物帳」(鼎書房)、編著に『半七捕物帳 初出版成』(三人社)、『青い馬 復刻版』(三人社)。



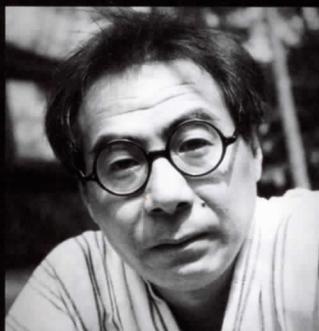
七北 数人(ななきた・かずと) / 文芸評論家・作家

1961年名古屋出身。大阪大学文学部卒業後、出版社勤務を経て文芸評論活動を始める。97年から筑摩書房の決定版『坂口安吾全集』の編集に携わり、別巻に坂口安吾年譜および関連人物名鑑を執筆。主な著書に『評伝坂口安吾 魂の事件簿』(集英社)、『泥酔文学読本』(春陽堂書店)。実業之日本社文庫の「無頼派作家の夜」シリーズ、鳥有書林の「日本語の醍醐味」シリーズなど。2021年より、安吾の少年時代を描く「小説坂口炳五」を春陽堂書店HPに連載している。



梨本 諦鳴(なしもと・たお) / 映像作家・演出家

新潟県燕市生まれ。筋肉少女帯MPV制作に参加。1991年、筋肉少女帯「暴いておやりよドルパッキー」で、ディレクターとなる。並行してリーグのチームビデオ制作に参加。93年帰郷後、映画・美術・写真・演劇と表現の枠にとらわれず地域に根ざした創作活動を続けている。2019年の「安吾生誕祭113」では、安吾の原作を自身で脚色、演出した奉納芝居「真作・青鬼の禪を洗う女」を、新潟市の護国神社境内で上演した。日本映画監督協会会員。



坂口安吾

(さかぐち・あんど)

1906(明治39)年10月20日、新潟市西大畑町に生まれる。旧制新潟中学から東京・豊山中学に編入学、東洋大学印度哲学倫理学科卒業。46年4月「墮落論」を発表、「半年のうちに世相は変わった」というメッセージが空虚に佇む人々に衝撃を与え、一躍脚光を浴びる。以後、太宰治らとともに無頼派の旗手として小説、評論、エッセイなど旺盛な創作活動を続ける。日本の伝統主義や権威の欺瞞性を批判する鋭い文明批評を展開し、戦後の文学や思想に大きな影響を与えた。55年2月17日、群馬県桐生市の自宅で脳出血のため48歳で死去。

主な作品に「風博士」「日本文化私観」「白痴」「桜の森の満開の下」「不連続殺人事件」「安吾巷談」「夜長姫と耳男」。日本の古代史や人々の暮らしを取材したルポ「安吾新日本地理」「安吾新日本風土記」ほか。

■安吾風の館企画展

「第7回 旅 富山の薬と 越後の毒消し」

関連イベント

日時 / 2021年9月4日(土)~12月19日(日)

会場 / 旧市長公舎「安吾風の館」展示室
 (新潟市中央区西大畑町5927-9)

入館は無料 休館日などの問い合わせは
 tel.025-226-2631

バス案内 新潟駅万代口バスターミナル7番線から、または
 観光循環バス乗車「西大畑坂上」バス停下車徒歩3分



主催:坂口安吾生誕祭実行委員会

加盟団体:(新潟市、新潟市芸術文化振興財団、安吾の会、松之山安吾の会、安吾全集を親しむ会、桐生安吾を語る会、東洋大学OB会、にいがた文化の記憶館、BSN新潟放送、新潟日報社)

■後援/新潟県、(公財)新潟県文化振興財団 ■協賛/春陽堂書店

■協力/新潟・市民映画館シネ・ウインド デザイン/CreativeLand 晴れ日